



平成 30 年 5 月 28 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 リ ボ ミ ッ ク
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 中 村 義 一
(コード番号：4591 東証マザーズ)
問 合 せ 先 執 行 役 員 経 営 企 画 部 長 中 村 恵 美 子
TEL. 03-3440-3745

**「第三者割当による第1回無担保転換社債型新株予約権付社債
及び第14回新株予約権の募集に関するお知らせ」について**

本日開示いたしました「第三者割当による第1回無担保転換社債型新株予約権付社債及び第14回新株予約権の募集に関するお知らせ」について、以下の資料を添付することをお知らせいたします。

【添付資料】

1. 第1回無担保転換社債型新株予約権付社債及び第14回新株予約権の発行に関するご説明資料

以 上

第1回無担保転換社債型新株予約権付社債及び 第14回新株予約権の発行に関するご説明資料

株式会社リボミック（4591）
平成30年5月28日

本資金調達の目的

RBM-007の
加齢黄斑変性症
を対象とした
臨床開発

X

RBM-007の
軟骨無形成症を
対象とした治験
計画届出準備
及び臨床開発

X

次世代型
「RiboART
システム」の
開発と新規事業
展開

資金調達を通して上記の活動資金を確保することで、1) 自社臨床開発によるRBM-007の製品価値の最大化、2) 製薬企業とのライセンス活動の推進、3) 新規事業展開につながる研究開発のスピードアップをはかり、中長期的な企業価値向上をはかる方針です。本資金調達は株主の皆様をはじめとするステークホルダー各位の利益に資するものと判断しております。

本資金調達の背景

- RBM-007の加齢黄斑変性症に対する作用メカニズムは既存薬にはない新規なメカニズムで、既存薬では奏効しない患者に対して新しい治療法を提供する可能性があり、臨床医からその実用化が期待がされています。そのため、自社で、治験薬の臨床有効性を確認するための第IIb相試験まで、米国において実施し、RBM-007の製品化への道筋とライセンス・アウトをより確実なものにすることを目指します。
- RBM-007の軟骨無形成症（希少疾患）に対する臨床試験は、上記加齢黄斑変性症の治験開始の翌年から本邦において実施する予定です。
- さらに、当社のコア技術である「RiboARTシステム」を、次世代型「RiboARTシステム」へと発展させ、アプタマーによる新規事業開発をはかる所存です。
- これらの事業展開により、当社は、従来の創薬探索から、臨床開発へとステージ・アップをはかります。
- この資金調達を通じて、ヘルスケア分野での事業展開支援において豊富な経験と実績を持っているウィズ・パートナーズ社から、国内外の企業等との業務提携等、当社の企業価値向上に資する施策の支援を頂くことができます。
- 上記を実施するための資金調達方法として、第1回無担保転換社債型新株予約権付社債及び第14回新株予約権の発行による資金調達方法が当社による資金ニーズに最も合致していると判断いたしました。

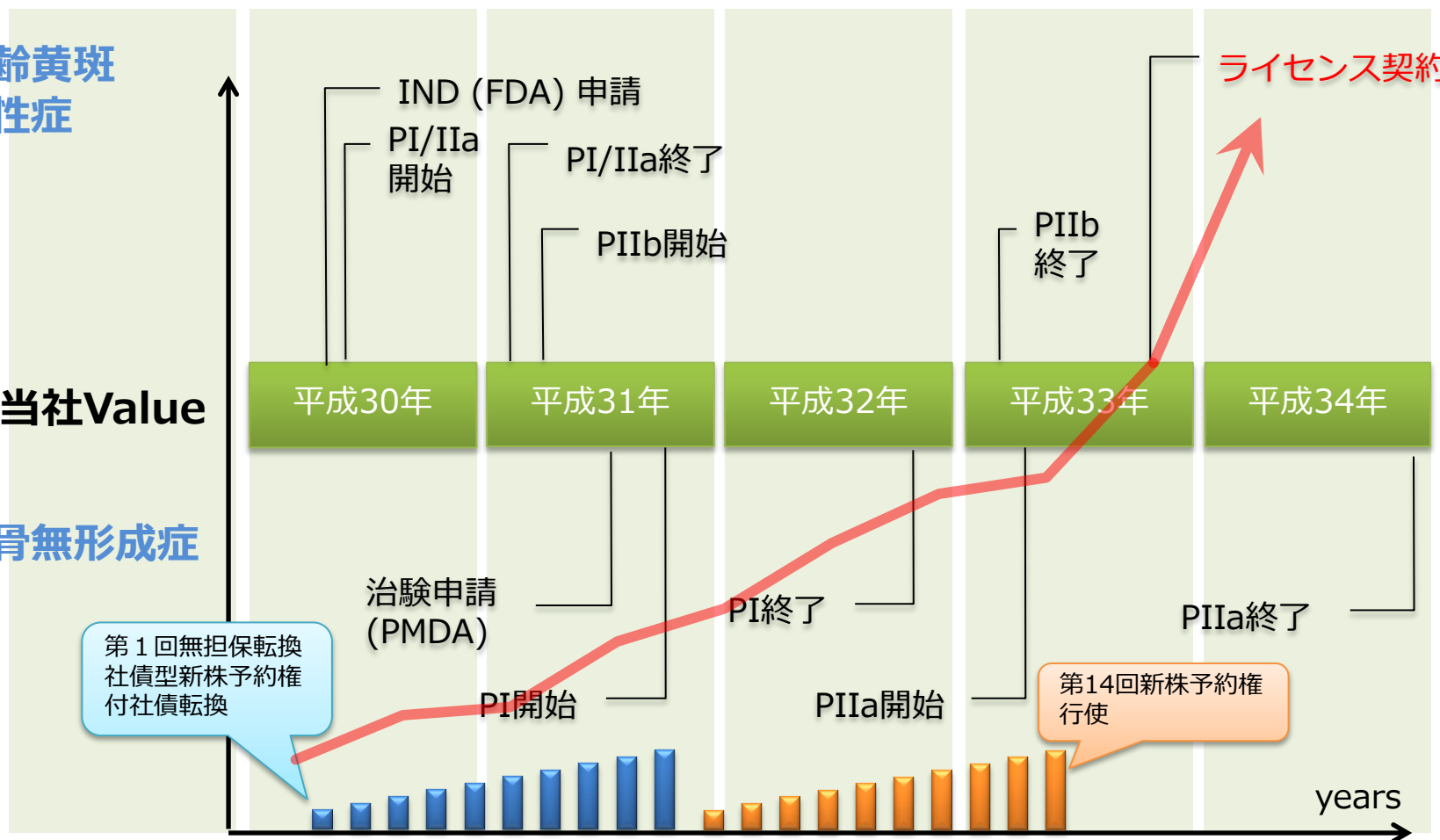
本資金調達による当社の成長イメージ

RBM-007の製品化への道筋とライセンス・アウトをより確実なものとし、かつ、探索研究を中心とした事業から、自社創薬品目の臨床開発も手掛ける製薬企業へとステージアップいたします

加齢黄斑
変性症

当社Value

軟骨無形成症



- ・当社の事業遂行、株価動向、市場における取引状況、市場への影響等に十分に配慮しながら、第1回無担保転換社債型新株予約権付社債転換及び第14回新株予約権行使並びに当社普通株式を売却。
- ・上図はイメージであり、実際の当社の株価の推移や行使並びに第1回無担保転換社債型新株予約権付社債転換及び第14回新株予約権行使並びに当社普通株式を売却を予想若しくは保証するものではありません。



本資金調達による資金使途

①RBM-007の臨床開発

開発中の適応症	基礎・探索研究	前臨床試験			臨床試験				上市
		<i>in vitro</i> / <i>in vivo</i> 試験	予備毒性試験	GLP試験	第I相	第II a相	第II b相	第III相	
加齢黄斑変性症	[進捗状況]			[本資金調達による臨床開発]					
軟骨無形成症	[進捗状況]			[本資金調達による臨床開発]					

: 平成30年5月28日現在における進捗状況
 : 本資金調達による調達資金を利用して実施する臨床開発

【加齢黄斑変性症を対象とした資金使途】

第 I / II a相試験実施費用の一部として99.8百万円、第 II b相試験実施費用として1,270百万円を充当。本資金調達により第 II b相試験までの資金は全てカバーすることを企図しております。

【軟骨無形成症を対象とした資金使途】

治験計画届出準備費用及び臨床開発費（第 I 相試験実施費用の一部及び第 II a相試験実施のための原薬製造費用の一部）として431.8百万円を充当。

②次世代型「RiboARTシステム」の開発と新規事業展開

当社のコア技術である「RiboARTシステム」を、次世代型「RiboARTシステム」へと発展させ、以下のようなアプタマーによる新規事業の開発と事業提携をはかり、安定的な収益基盤を整備してまいります。

- ① 既存技術では対応できない部位へのアプタマーの送達やAI技術を活用したアプタマー創製の技術基盤の確立。
- ② アプタマーの医薬品以外での新規用途の開発。

上記目的を達する技術開発のために、180百万円を充当。



臨床試験を予定する2つの疾患の特徴とRBM-007の作用機序

特徴	AMD (加齢黄斑変性症)	ACH (軟骨無形成症)
患者数 (世界)	1億3,500万人 (2014年) ¹⁾	25万人 (希少疾患) ²⁾
市場規模 (世界)	約 1 兆円 ³⁾	数百億~1,000億円程度 (当社推定) ⁴⁾
病因	脈絡膜血管新生による視力低下 (失明に至るリスク大)	FGFR3受容体の突然変異による軟骨成長板の抑制 (低身長)
既存薬	抗VEGF阻害剤 (Lucentis [®] 、 Eylea [®] 等)	成長ホルモン (日本のみ)
既存療法の問題点	<ul style="list-style-type: none"> 血管新生が再発する患者及び奏功しない患者が相当数存在 奏功した患者も2~3年経過すると視力悪化が再燃 視力悪化の原因と思われる瘢痕形成に対して抑制作用がない 毎月1回の硝子体 (眼球) 注射による患者負担が大 	<ul style="list-style-type: none"> 既存薬の薬効が低い 創外固定を用いた数年にわたる四肢延長手術の負担大
RBM-007の優位性	<ul style="list-style-type: none"> 脈絡膜血管新生を抑制⁵⁾ 瘢痕化を抑制⁵⁾ (二重の異なる作用) 2~3ヶ月の硝子体投与を想定 	<ul style="list-style-type: none"> 変異を起こしたFGFR3受容体を活性化するFGF2の不活化による根本治療⁵⁾ マウス病態モデルで低下した骨長を50%回復できる⁵⁾ 月1~2回の皮下投与を想定。

1) Market Scope, 2014 Report on the Retinal Pharma & Biotech Market, p66.

2) Horton et al. Lancet, 370, 162-172 (2007).

3) Visiongain Ltd. (商品コード : 290418) 2017年7月17日発行.

4) 対象となる小児患者数を1万人、薬剤単価を数百万円と想定した場合。

5) 動物実験で証明

本資金調達の仕組み

①本資金調達の仕組み

- 今回の資金調達は、当社が割当予定先に対し、転換期間を約3.5年間とする本新株予約権付社債（調達額10億円）及び、行使期間を4年間とする本新株予約権（最大調達額1,001,642,000円）を第三者割当の方法によって割当てます。第1回無担保転換社債型新株予約権付社債においては、発行時点において10億円の資金が調達でき、第14回新株予約権においては、強制行使条項が付与されており、その条項が発動できる場合には同条項に従い、段階的に資金を調達できる仕組みとなっております。

②希薄化の抑制

- 平成29年6月26日に大和証券株式会社に割当てた、第13回新株予約権につきましては10,000個、対象株数1,000,000株が未行使の状況であります。残存する第13回新株予約権の全部を当社が取得するとともに、取得後直ちにその全部を消却することが、当社にとって潜在株式数を抑制することとなります。株式会社ウィズ・パートナーズにとっては本投資における権利行使を円滑に進めることができるため本投資契約の前提条件となっており、本日開催の取締役会において、取得及び消却の決議をいたしました。（本日開示「行使価額修正条項付き第13回新株予約権の取得及び消却に関するお知らせ」を参照）
- 第1回無担保転換社債型新株予約権付社債の全てが転換、及び第14回新株予約権の全てが行使された場合には、平成30年5月28日現在の発行済株式総数14,381,900株に対し22.72%の希薄化となりますが、第13回新株予約権を取得し消却することにより、総体としての希薄化の程度に配慮しております。

【用語解説】

新株予約権：事前に決められた行使価額で行使することにより株式の交付を受けることができる権利
転換社債型新株予約権付社債：社債を出資して、事前に決められた転換価額で株式に転換することができる点に特徴がある社債

本資金調達概要

- 転換価額、及び行使価額は**612円**に定められ、下方修正条項は付されておらず、本資金調達に係る潜在株式数は3,267,986株となります。
- 本資金調達の必要性がなくなった場合等は、所定の条件に従い当社の判断により、**未転換の無担保転換社債型新株予約権付社債の全部又は一部の繰上償還、未行使の新株予約権の全部を取得し消却することが可能**です。

	第1回無担保転換社債型新株予約権付社債	第14回新株予約権
割当予定先	ウィズ・ヘルスケア日本2.0投資事業有限責任組合 THEケンコウFUTURE投資事業有限責任組合 (業務執行組合員：株式会社ウィズ・パートナーズ)	
資金調達額 (差引手取概算額)	19億8164万2千円	
調達予定額	10億円	10億164万2千円(1)
発行株式数(2)	1,633,986株	1,634,000株
発行済株式数対比(2)	11.36%	11.36%
合計潜在株式比率(2)	22.72%	
転換価額	612円	—
行使価額	—	612円
償還期限	平成33年12月31日	—
行使可能期間	—	平成30年6月13日～平成34年6月12日
資金用途	①：RBM-007の加齢黄斑変性症を対象とした臨床開発費 ②：RBM-007の軟骨無形成症を対象とした治験計画届出準備費用及び臨床開発費 ③：次世代型「RiboARTシステム」の開発と新規事業展開	

(1)：発行価額の総額及び行使に際して払い込むべき金額の合計額の合算。

(2)：発行株式数は無担保転換社債型新株予約権付社債が全て転換、新株予約権が全て行使された場合、発行済株式数対比は発行済株式総数（平成30年5月28日現在）に対する割合。

注意事項

- ❑ 本資料は、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。本資料は投資家の参考に資するため、株式会社リボミックの現状をご理解頂くために、株式会社リボミックが作成したものです。
- ❑ また、本資料には株式会社リボミックの現在の計画や今後の見通しが含まれています。これらの計画や見通しは当社が現時点での前提に基づいて判断したものであり、その実現を保証するものではありません。また、将来の計画や今後の見通しを完全に見通したとは限らず、将来の業績に影響を与えるリスクや不確実な要素が含まれており、実際の計画や見通しは様々な要素により、これらと異なることがあります。
- ❑ 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- ❑ 研究開発中の医薬品に関する情報を記載しておりますが、広告宣伝、医学的アドバイスを目的にしているものではありません。
- ❑ なお、投資を行う際には、必ず投資家ご自身のご判断で行っていただきますようお願いいたします。



株式会社リボミック（4591）
〒108-0071 東京都港区白金台3-16-13 白金台ウスイビル

お問い合わせは、当社ホームページの
お問い合わせフォームよりお願いいたします。

<http://www.ribomic.com/>